

Title	地域モビリティを育てる「Co交通」の形成に関する研究
Author(s)	村上, 早紀子
Citation	
Issue Date	2017-03-23
URL	http://hdl.handle.net/10129/6058
Rights	
Text version	ETD



<http://repository.ul.hirosaki-u.ac.jp/dspace/>

論文審査及び最終試験結果報告書

課程博士	地域社会研究科 地域社会専攻 地域政策研究講座		
学籍番号	14GR107	氏名	村上早紀子
審査委員	主査	北原啓司	
	副査	土井良浩	
	副査	平井太郎	

(論文題目)

地域モビリティを育てる「Co交通」の形成に関する研究

(論文審査の要旨)

本論文は、交通過疎地におけるこれまでの政策の中心であった、自治体からの交通サービス供給の図式が、財政負担の増大とともに、持続不能なものとなっていく現実的な課題に対して、これまで一方的に供給を受ける側であった地域住民が主体的に動くことにより、住民・行政・事業者の協働による新たな地域公共交通のシステムを育てていく仕組みが形成されていく可能性があることを、全国の2000を超える自治体の中での先進事例から抽出された68の実践に見いだし、特にそこで大きな可能性を示唆し得る数事例（富良野、北上、土浦、魚津、氷見、伊勢、佐久間など）の調査を詳細に実施した上で、真の持続可能性につながる新たな協働の仕組みを提起したものである。

著者は、それを「Co交通」という独自の概念を生み出して論述を進めており、日本都市計画学会においても査読論文として複数回認められていることから、その定義自体に問題はないものと判断され、論文の審査上問題となるのは、先進事例の抽出理由、そしてその抽出で我が国の交通過疎地における先進的な公共交通システムをカバーしきれているのか、そしてこの論文自体が、これまでの交通政策に関わる研究に対してどのような風穴をあけることができるのか、二人の副査からは何度か個々に丁寧な指導をしていただき、また本人によるプレゼンテーションを主査・副査の前で実施してもらい、最終プレゼンに向けての詳細な指導を進めた。

(最終試験結果の要旨)

本論文で評価すべき点は、財政負担ともなる交通過疎地における公共交通サービスに対する支援は、交通政策という単一の枠組みで評価・実施していくものではなく、各地域の自立のための包括的な政策の一部として成立していくものであるという点を、北上市口内地域の実践から見いだしたところにある。まだ年数は経っていないものの、同じような視点で評価し得る新たな事例が、各地で生まれつつあり、将来的には、それらの事例調査もぜひ進めて欲しいとの意見もあり、今後の研究発展が十分に期待できるという評価のもと、全員一致で合格と判断するに至った。